

子育て支援センターにおける食育に対する取り組みに関する調査

橋本 加代¹、岸田 恵津²

¹神戸女子大学 家政学部 管理栄養士養成課程

²兵庫教育大学大学院 学校教育研究科

Survey on practice of nutrition education in child-care support center

Kayo Hashimoto¹, Etsu Kishida²

¹ Faculty of Home Economics, Kobe Women's University

² Hyogo University of Teacher Education

1 緒言

子どもの生活習慣に関する平成17年度乳幼児栄養調査によると、午後10時以降に就寝する子どもの割合は33.7%、朝食の欠食率は9.4%という状況であり、朝食欠食と就寝時刻との関連をみると、就寝時刻が10時以降で欠食がみられる割合が高いことがわかっている¹⁾。また、家庭では、子どもの日常生活で気になることや悩みとして、食事バランスや食事量、好き嫌いなど食生活に関することがあげられている²⁾。さらに、子育てをめぐる環境も変化するなかで、子育て中の親の孤独感や不安の増大という問題も生じている²⁾³⁾⁴⁾。

このような背景のもとに平成17年6月食育基本法が公布され、平成18年3月の食育推進基本計画では食育推進運動の展開にあたり、家庭、学校、保育所、地域等社会のさまざまな分野における取り組みが必要とされ、現在では多方面で食育活動が展開されている。子育てにかかわる次世代育成支援対策推進法では、行動計画策定指針の中に食育推進を地域における子育て支援として位置づけている⁵⁾。また、平成20年3月に保育所保育指針が改訂され、食育の意義について明らかにされるとともに、保護者支援の原則や基本を踏まえ、保

育所の特性を生かした入所児の保護者への支援及び地域の子育て支援について示されている⁶⁾。

このような法整備とともに厚生労働省では、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を推進することにより、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進する目的で地域子育て支援拠点事業を実施している。拠点は幼稚園や保育所、児童館等子育て親子が集う場所として適した場所に設置されており、子育て支援拠点を「子育て支援センター」と呼んでいる。また、少子化社会対策基本法第7条の規定にもとづく大綱として子ども・子育てビジョンが定められており、子育て支援の拠点の充実と食育の普及推進が位置づけられている⁷⁾。したがって、このような目的で設置されている子育て支援センターは、食育を推進する場所として期待できると考えた。

食育と子育て支援に関する研究では、保育所での子育て支援活動の実践に向けて、保育士および調理師対象の食育研修会の実施⁸⁾や幼稚園で実施されている子育て支援活動に関する報告⁹⁾などいくつか見られる。児童館での実践を通じた食教育

プログラムの開発研究についての報告¹⁰⁾もある。また、子育て支援に対するニーズや子育て支援センターの利用状況については各市で調査されており、保育所や幼稚園での子育て支援事業の認知度は高いが利用経験は低いという結果も得られている³⁾¹¹⁾。しかし、食育を通じた子育て支援の視点から、子育て支援センターでの食育の実施状況を明らかにしたものは、著者らの知る限り見あたらない。

そこで本研究では、子育て支援センターでの食育を推進する可能性を検討するため、子育て支援センターでの食育の取り組みの現状を、兵庫県N市を対象地域として調査した結果を報告する。

2 調査対象及び方法

(1) 調査対象

兵庫県N市内のすべての子育て支援センター168施設を対象とした。N市は、大都市間のほぼ中間に位置し、主に住宅地が多い地域である。そして本研究での子育て支援センターには、幼稚園・保育所に設置されている子育て支援センター、市立子育て総合センターの登録サークル、社会福祉協議会が所管する子育て地域サロン及び児童館が含まれる。

(2) 調査時期及び方法

平成21年3月から4月に幼稚園、保育所、児童館は郵送法で、地域サロンは子育て総合センターを、サークルは社会福祉協議会を通じて依頼し、回答は郵送で得た。

なお、アンケートは無記名とし、アンケートに説明文書を添付し、アンケートの回収をもって同意されたとみなした。

(3) 調査内容と分析

子ども対象の食育活動と保護者対象の食育活動について実施状況を知るため、①食育活動の実施の有無と実施していない理由、②対象年齢、③スタッフ、④活動内容、⑤活動方法、⑥経費等について、回答選択肢を設定して質問した。なお、回

答項目については次項の結果及び表3～8で示す。

分析は、子育て支援センターを設置場所別（幼稚園、保育所、サロン、サークル、児童館）に行った。

3 結果

対象施設数及び回収数、回収率は表1のとおりで、全体で回収施設数は71、回収率は42.3%であった。

表1 対象施設数及び回収数、回収率

施設区分	対象施設数	回収数	回収率(%)
幼稚園	61	17	27.8
保育所	49	10	20.4
児童館	8	5	62.5
サロン	33	25	75.8
サークル	17	14	82.4
全体	168	71	42.3

(1) 子ども対象の食育活動実施状況

子どもを対象とした食育活動を実施している施設は、24施設33.8%であり、未実施施設は47施設66.2%であった。保育所で実施割合が最も高く（90%）、次いで幼稚園であった（52.9%）。児童館は、施設数が少ないものの、実施割合は40.0%であったが、サークルとサロンで低い傾向にあった（表2）。

表2 食育活動の実施状況

施設区分	子ども対象	保護者対象
	実施施設数(%)	実施施設数(%)
幼稚園 (n=17)	9(52.9)	7(41.2)
保育所 (n=10)	9(90.0)	7(70.0)
児童館 (n=5)	2(40.0)	5(100.0)
サロン (n=25)	3(12.0)	6(24.0)
サークル (n=14)	1(7.1)	2(14.3)
全体 (n=71)	24(33.8)	27(39.1)

・回答結果の%は、各施設数に対する割合を示す

食育活動の対象年齢は、サロン、サークルでは1～2歳の乳幼児が多く、保育所、幼稚園では1～6歳以上と幅広い幼児を対象としていた（図1）。

食育活動の内容を問うために、子どもの食育において重要と考えられる①食事マナー、②箸の持ち方、③食べ物の好き嫌い、④朝食、⑤野菜の摂取、⑥おやつ、⑦早寝・早起き、⑧歯磨き、⑨バランスの良い食事、⑩その他の10項目を回答項目

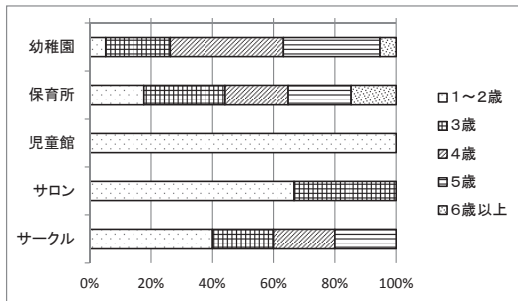


図1 食育活動の対象年齢

対象年齢については複数回答可とした。
各施設で年齢区分に対する回答数を合計し、合計数に対する各対象年齢区分回答数の割合を図に示した。各施設の回答合計数は次の通り：幼稚園19、保育所34、児童館2、サロン3、サークル5

とした。全体では「食事マナー」が79.2%で最も多く実施されており、次いで「野菜の摂取」、「おやつ」、「バランスの良い食事」が54.2%であった。施設別では、幼稚園、保育所ですべての項目に回答があり、幅広い内容の活動が実施されているようであったが、他の施設では実施されていない内容があった（表3）。なお、「その他」の具体的内容として、食事の姿勢、たのしく食べる、食材について等の記載があった。

表3 食育活動の内容（子ども対象）

活動内容	幼稚園 (n=9)	保育所 (n=9)	児童館 (n=2)	サロン (n=3)	サークル (n=1)	全体 (n=24)
マナー	9(100.0)	8(88.9)		1(33.3)	1(100.0)	19(79.2)
箸の持ち方	5(55.6)	5(55.6)				10(41.7)
食べ物の好き嫌い	7(77.8)	4(44.4)	1(50.0)			12(50.0)
朝食	3(33.3)	4(44.4)	1(50.0)			8(33.3)
野菜の摂取	6(66.7)	6(66.7)			1(100.0)	13(54.2)
おやつ	5(55.6)	4(44.4)	1(50.0)	2(66.7)	1(100.0)	13(54.2)
早寝・早起き	4(44.4)	2(22.2)				6(25.0)
歯磨き	6(66.7)	4(44.4)	1(50.0)	1(33.3)		12(50.0)
バランスの良い食事	6(66.7)	4(44.4)	1(50.0)	1(33.3)	1(100.0)	13(54.2)
その他	1(11.1)	1(11.1)		1(33.3)		3(12.5)

・回答結果の数値は、回答数(%)を示す
・複数回答可とした

表4 食育活動の方法（子ども対象）

活動方法	幼稚園 (n=9)	保育所 (n=9)	児童館 (n=2)	サロン (n=3)	サークル (n=1)	全体 (n=24)
芝居(絵本)	8(88.9)	5(55.6)		2(66.7)		15(62.5)
パネルシアター(エプロン)	4(44.4)	3(33.3)		1(33.3)		8(33.3)
ゲーム	5(55.6)	1(11.1)				6(25.0)
調理(おやつづくり)	8(88.9)	7(77.8)				15(62.5)
お話	5(55.6)	8(88.9)	1(50.0)	1(33.3)	1(100.0)	16(66.7)
歌	4(44.4)	2(22.2)		1(33.3)		7(29.2)
その他	2(22.2)	4(44.4)	1(50.0)	1(33.3)		8(33.3)

・回答結果の数値は、回答数(%)を示す
・複数回答可とした

食育活動の方法に対する回答項目は、①紙芝居（絵本）、②パネルシアター（エプロンシアター）、③ゲーム、④調理（おやつづくり）、⑤お話、⑥歌、⑦その他の7項目とした。全体では「お話」が66.7%で最も多く、次いで「紙芝居」、「調理」が62.5%であった（表4）。幼稚園、保育所ではすべての方法で実施されていたが、他の施設では実施されていない方法があった。「その他」の方法では、クッキング体験、収穫体験等の記載があった。

食育活動を実施していない施設（47施設）の理由を問う回答項目を、①必要性がない、②スタッフがいない、③場所がない、④実施方法がわからない、⑤要望がない、⑥その他とした。全体では、「要望がない」が38.3%で最も多く、次いで「実施方法がわからない」で34.0%であった。食育活動を実施していない施設が多いサロンやサークルでは、サロンで「要望がない」が45.5%と多く、サークルでは「実施方法がわからない」が

表5 食育活動を実施していない理由(子ども対象)

理由	幼稚園 (n=8)	保育所 (n=1)	児童館 (n=3)	サロン (n=22)	サークル (n=13)	全体 (n=47)
必要性がない				2(9.1)		2(4.3)
スタッフがいない	1(12.5)			4(18.2)	4(30.8)	9(19.1)
場所がない	1(12.5)		1(33.3)		2(15.4)	4(8.5)
実施方法がわからない	1(12.5)		1(33.3)	7(31.8)	7(53.8)	16(34.0)
要望がない	4(50.0)		1(33.3)	10(45.5)	3(23.1)	18(38.3)
その他	5(62.5)	1(100.0)	2(66.7)	12(54.5)	5(38.5)	25(53.2)

・回答結果の数値は、回答数(%)を示す
・複数回答可とした

53.8%と多かった(表5)。しかし、「その他」の回答が多く、具体的内容は、対象年齢が小さく理解されないのではないか、仲間作りや遊びが中心となっている、食育を目的としていない等が挙げられていた。

(2) 保護者対象の食育活動実施状況

保護者を対象とした食育活動を実施している施設は、27施設39.1%であり、サロンとサークルでは低い傾向であり、児童館は、施設数が少ないが、すべてで実施されていた(表2)。

食育活動の内容について子ども対象の場合と同じ内容で質問したところ、全体では「バランスの良い食事」が81.5%で最も多く実施されており、次いで「野菜の摂取」、「おやつ」、「食べ物の好き嫌い」、「朝食」の順で多く、これらは子ども対象と同様の傾向であった。しかし、「箸の持ち方」は18.5%と最も低く、全体的には、子ども対象で多く取り上げられていた「マナー」や「箸の持ち方」は保護者対象の内容としてはあまり実施されておらず、子ども・保護者を問わず実施さ

れている内容と対象によって異なる内容があることがわかった。施設別では、どの施設においても「バランスの良い食事」を取り上げている割合が最も高かった。幼稚園では、「箸の持ち方」や「おやつ」は実施割合が低かったが、保育所ではどの内容もまんべんなく取り上げられている傾向であった。サロン・サークルでは実施されていない内容もあり、特にサークルは実施施設数が少ないこともあり、取り上げられている内容が限られていた(表6)。「その他」の回答は、レシピの紹介、田植え、稲刈体験等であった。

食育活動の方法については、①料理教室、②講演会、③相談会、④その他を回答項目とした。全体では、「講演会」が37.0%で最も多かった(表7)。しかし、「その他」の回答が55.6%と多く、ホームページ、食育ボードの展示、おたより、田植え等の体験活動等が挙げられていた。

食育活動を実施していない施設(42施設)の理由を、子どもの場合と同じ内容で質問したところ、全体では「要望がない」が33.3%で最も多

表6 食育活動の内容(保護者対象)

活動内容	幼稚園 (n=7)	保育所 (n=7)	児童館 (n=5)	サロン (n=6)	サークル (n=2)	全体 (n=27)
マナー	3(42.9)	4(57.1)	1(12.5)	1(16.7)		9(33.3)
箸の持ち方	1(14.3)	4(57.1)				5(18.5)
食べ物の好き嫌い	3(42.9)	6(85.7)	2(40.0)	1(16.7)		12(44.4)
朝食	3(42.9)	5(71.4)	2(40.0)	2(33.3)		12(44.4)
野菜の摂取	4(57.1)	6(85.7)	2(40.0)	1(16.7)	1(50.0)	14(51.9)
おやつ	1(14.3)	4(57.1)	4(80.0)	3(50.0)	1(50.0)	13(48.2)
早寝・早起き	3(42.9)	4(57.1)	1(12.5)	1(16.7)		9(33.3)
歯磨き	2(28.6)	5(71.4)	4(80.0)			11(40.7)
バランスの良い食事	5(71.4)	6(85.7)	5(100.0)	5(83.3)	1(50.0)	22(81.5)
その他	4(57.1)	2(28.6)	1(12.5)	3(50.0)		10(37.0)

・回答結果の数値は、回答数(%)を示す
・複数回答可とした

表7 食育活動の方法(保護者対象)

活動内容	幼稚園 (n=7)	保育所 (n=7)	児童館 (n=5)	サロン (n=6)	サークル (n=2)	全体 (n=27)
料理教室	3(42.9)	1(14.3)		1(16.7)	1(50.0)	6(22.2)
講演会	3(42.9)		4(80.0)	3(50.0)		10(37.0)
相談会		2(28.6)	2(40.0)	1(16.7)		5(18.5)
その他	4(57.1)	6(85.7)	2(40.0)	2(33.3)	1(50.0)	15(55.6)

・回答結果の数値は、回答数(%)を示す

・複数回答可とした

表8 食育活動を実施していない理由(保護者対象)

理由	幼稚園 (n=10)	保育所 (n=2)	サロン (n=18)	サークル (n=12)	全体 (n=42)
必要性がない			2(11.1)		2(4.8)
スタッフがいない	2(20.0)		3(16.7)	1(8.3)	6(14.3)
場所がない	1(10.0)			2(16.7)	3(7.1)
実施方法がわからない	1(10.0)		5(27.8)	3(25.0)	9(21.4)
要望がない	4(40.0)		9(50.0)	1(8.3)	14(33.3)
その他	4(40.0)	2(100.0)	8(44.4)	2(16.7)	16(38.1)

・回答結果の数値は、回答数(%)を示す

・複数回答可とした

く、次いで「実施方法がわからない」であった(表8)。中でも食育活動の実施割合が低かったサロンとサークルでは「実施方法がわからない」に加え、「スタッフがいない」、「場所がない」が幼稚園や保育所よりも多く理由として挙げられていた。しかし、子ども対象の食育を実施していない理由と同様に、「その他」の回答が38.1%と多く、具体的な理由として、親の時間が無い、時間もスタッフもない、保護者からの相談があれば対応している等が挙げられていた。

4 考察

本研究では、子育て支援センターでの食育を推進する可能性を検討するため、N市内の子育て支援センターでの食育活動の実施状況を調査した。N市の対象施設168のうち回収できた71の子育て支援センターを設置場所より幼稚園、保育所、サロン、サークル、児童館で分類して結果を比較検討した。

子どもを対象にした食育活動、保護者を対象にした食育活動ともに、サロンやサークルでは実施割合が低い傾向であった。

子どもを対象とした食育活動の内容では、幼稚園、保育所ではすべての内容が実施されており特に「食事マナー」は高い実施割合であった。ま

た、「野菜の摂取」については保護者対象の場合も両施設では「バランスのよい食事」と同程度か次いで多く実施されており、バランスのよい食事とするために野菜の偏食に向かないように、積極的に取り組まれていると推察する。サロン、サークル、児童館では実施内容が限定されているようであったが、これは食育の実施割合が少ないことと関わっているかもしれない。また、サロンとサークルで実施されていない理由としてあげられていた「スタッフがいない」や「実施方法がわからない」ということも実施内容に影響を及ぼしているのではないかと考える。

子どもを対象にした食育活動の方法では、幼稚園と保育所で「調理(おやつづくり)」が多く実施されていた。調理体験は「野菜の摂取」や「食べ物の好き嫌い」についての食育につなげることができるとともに食べ物への感謝の心を養うことも期待できるので、実施されることが望まれる。保護者を対象にした食育活動の方法は、児童館以外で「料理教室」が実施されていた。若い世代の調理経験不足が食事を作ることへの抵抗感や苦手意識を生み、そのことが子育てのつらさ感を助長しているのではないかという報告¹²⁾もあることから、料理は食育の方法としてだけでなく、子育て

支援としての効果も期待できると考えるので、料理教室が実施できるような更なる環境整備も望まれる。

食育活動を実施していない理由では、子ども対象、保護者対象の食育活動ともに「要望がない」が多くあげられていた。次世代育成支援行動計画策定のためのニーズ調査結果³⁾では、子育てに関して日頃の悩みとして最も多いのが、「子どもを叱りすぎているのではないか」（34.6%）、「仕事や自分のやりたいことが十分できない」（32.8%）、次いで「食事や栄養に関すること」（32.2%）、「子どもの発育・発達」（22.9%）「近所に子どもの遊び友達がいない」（17.9%）となっている。食事や栄養に関することも悩みにあげられているにもかかわらず「要望がない」が比較的多いのは、「その他」の内容として記載されていた「対象年齢が小さい」、「仲間作りや遊びが中心となっている」、「親の時間がない」と捉えられていることが影響しているのではないかと推測する。

今回の調査では、サロン、サークル、児童館では回収率が高く、幼稚園、保育所は回収率が低かったこともあり、この結果のみで現状を十分に把握できたとはいえず、特に施設間比較には課題が残る。しかし、実施割合が低い子育て支援センターでは、実施方法がわからないやスタッフがいないことが食育活動が実施できない理由であることがわかった。今後、子育て支援センターにおいて、積極的に食育を推進するためには、食の専門家である行政栄養士をはじめ地域の栄養士会や食生活ボランティア団体、管理栄養士養成機関との連携によって食育方法や場所、スタッフの充実を図ることが必要であることが示唆された。

5 要約

子育て支援センターでの食育を推進する可能性を検討するため、子育て支援センターでの食育の取り組みの現状を調査し、以下の結果を得た。

- (1) 子どもを対象にした食育活動は33.8%で実施されており、保護者を対象にした食育活動は39.1%で実施されていた。
- (2) 設置場所別にみると幼稚園と保育所では実施率が高く、サロンとサークルでは実施率が低い傾向にあった。
- (3) 食育活動を実施していない主な理由は「スタッフがいない」や「実施方法がわからない」等であった。
- (4) 幼稚園と保育所では様々な内容で食育が実施されており、「食事マナー」は子ども対象で高い実施割合であった。また、子ども・保護者対象ともに「野菜の摂取」や「バランスの良い食事」を取り上げ、偏食に向かないよう積極的に取り組まれているようであった。
- (5) 保護者対象の食育活動の方法では、児童館以外で「料理教室」が実施されており、調理は食育の方法だけでなく、子育て支援としての効果が期待できると考えられているようであった。

以上のことから、今後、子育て支援センターにおいて食育活動を推進するためには、食の専門家である行政栄養士をはじめ地域の栄養士会や食生活ボランティア団体、管理栄養士養成機関との連携によって食育の方法や場所、スタッフの充実を図ることが必要であることが示唆された。

6 謝辞

本調査を実施するにあたり、社会福祉協議会、市立子育て総合センター、対象となった子育て支援センターの皆様にご感謝いたします。

引用文献

- 1) 厚生労働省：平成17年度乳幼児栄養調査結果の概要（2005）
- 2) 厚生労働省：第7回21世紀出生時横断調査結果の概況（2009）
- 3) 西宮市：西宮市次世代育成支援行動計画策定のためのニーズ調査結果（後期計画）（2010）
- 4) 厚生労働省：子育て支援対策等に関する調査研究（報告書概要版）（2003）
- 5) 次世代育成支援対策推進法 法律第85号、平成20年12月3日
- 6) 保育所保育指針 厚生労働省告示第141号、平成20年3月28日
- 7) 子ども・子育てビジョン 閣議決定、平成22年1月29日
- 8) 中澤孝江、出口恵子：保育所における子育て支援活動の実践—食育Ⅰ・Ⅱ—、愛国学園短期大学紀要、25 35-43（2008）
- 9) 平田亜子：地域子育て支援における食育活動の試み、宮城学院女子大学発達科学研究、5、53-62（2005）
- 10) 平本福子、針谷順子、足立己幸：児童参加型食教育プログラム「わくわく食探検」の開発と評価—仙台市H児童館児童の事例—、小児保健研究、6、757-766（2007）
- 11) 酒井治子、廣瀬志保、山縣然太郎、吉池信男：地域の子育て支援拠点における親世代の食育ニーズの検討、日本健康教育学会誌、17（増刊号）、94（2009）
- 12) 寺田恭子：地域における「食」を柱にした子育て支援の取り組みと課題—阿倍野区における1歳6か月児健診時の子育て当事者調査結果分析を中心にして—、日本家政学会関西支部第32回研究発表会研究発表要旨、27（2010）